

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2010年11月)

発表日 2011年1月21日(金)

～4ヶ月連続の悪化～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 小杉 晃子

T E L : 03-5221-4548

(単位: %)

		全産業活動指数									
				第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
09	1-3月	▲ 6.3	▲ 11.1	▲ 3.1	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 34.6	0.2	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 1.1
	4-6月	1.1	▲ 9.3	▲ 0.6	▲ 6.1	6.5	▲ 27.4	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 2.0	0.1
	7-9月	1.1	▲ 7.0	0.6	▲ 4.7	5.3	▲ 19.4	0.1	0.7	▲ 6.2	▲ 6.4
	10-12月	0.1	▲ 3.7	▲ 0.3	▲ 3.4	5.9	▲ 4.3	0.0	0.1	▲ 5.3	▲ 13.5
10	1-3月	1.4	3.7	1.1	0.7	7.0	27.5	▲ 0.8	▲ 0.8	0.7	▲ 12.2
	4-6月	0.8	3.4	▲ 0.1	1.3	1.5	21.0	▲ 0.7	▲ 1.4	▲ 0.8	▲ 11.3
	7-9月	0.7	3.1	0.8	1.6	▲ 1.8	13.5	0.9	▲ 0.6	2.4	▲ 3.2
09	1月	▲ 1.3	▲ 9.0	▲ 0.1	▲ 4.5	▲ 8.4	▲ 30.9	▲ 0.2	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 1.5
	2月	▲ 3.7	▲ 12.5	▲ 0.7	▲ 7.4	▲ 8.6	▲ 38.6	0.3	0.8	▲ 0.1	▲ 1.1
	3月	▲ 1.0	▲ 11.7	▲ 3.4	▲ 7.7	2.2	▲ 33.8	0.2	▲ 0.8	▲ 0.5	▲ 0.9
	4月	2.4	▲ 10.0	2.0	▲ 6.2	4.5	▲ 31.0	▲ 0.6	▲ 0.9	0.2	0.9
	5月	0.9	▲ 10.0	▲ 0.2	▲ 7.1	4.6	▲ 29.0	0.5	1.2	▲ 1.6	1.0
	6月	0.3	▲ 7.9	0.2	▲ 5.1	1.5	▲ 22.5	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 2.5	▲ 1.3
	7月	0.5	▲ 8.0	0.5	▲ 5.3	1.1	▲ 22.3	0.2	0.6	▲ 2.5	▲ 3.5
	8月	0.0	▲ 6.3	0.2	▲ 4.1	1.5	▲ 18.3	▲ 0.2	0.4	▲ 1.5	▲ 6.5
	9月	0.1	▲ 6.7	▲ 0.3	▲ 4.7	1.8	▲ 17.5	0.1	1.3	▲ 1.9	▲ 8.8
	10月	0.2	▲ 6.1	0.2	▲ 4.4	1.5	▲ 14.4	▲ 0.2	0.5	▲ 1.0	▲ 10.5
	11月	▲ 0.2	▲ 3.3	▲ 0.2	▲ 3.0	2.6	▲ 2.9	0.2	▲ 0.5	▲ 3.6	▲ 14.5
	12月	▲ 0.3	▲ 1.6	▲ 0.7	▲ 2.7	2.6	6.4	0.2	0.3	▲ 0.4	▲ 15.3
10	1月	3.4	1.9	2.9	▲ 0.1	4.3	18.9	▲ 1.3	▲ 0.3	0.7	▲ 13.9
	2月	▲ 2.2	4.2	▲ 0.5	0.6	▲ 0.6	31.3	0.5	▲ 0.6	4.3	▲ 10.0
	3月	▲ 0.6	5.0	▲ 2.6	1.8	1.2	31.8	0.0	▲ 1.5	▲ 4.0	▲ 13.0
	4月	1.9	4.0	2.4	1.8	1.3	25.9	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 4.4	▲ 17.0
	5月	0.0	3.1	▲ 0.9	1.1	0.1	20.4	▲ 0.1	▲ 1.7	9.2	▲ 8.1
	6月	0.2	3.0	0.2	1.0	▲ 1.1	17.3	0.0	▲ 1.4	▲ 2.7	▲ 8.3
	7月	0.9	3.0	1.4	1.5	▲ 0.2	14.2	▲ 0.1	▲ 1.0	0.8	▲ 5.3
	8月	▲ 0.1	3.8	▲ 0.1	2.3	▲ 0.5	15.1	1.5	▲ 0.7	2.2	▲ 1.7
	9月	▲ 0.8	2.7	▲ 0.9	1.3	▲ 1.6	11.5	0.0	▲ 0.3	▲ 2.8	▲ 2.8
	10月	▲ 0.3	1.3	0.3	0.6	▲ 2.0	4.3	0.0	0.7	0.5	▲ 1.1
	11月	▲ 0.1	2.4	0.6	2.5	1.0	5.8	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 3.1	▲ 0.5

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 全産業活動指数：前月比▲0.1%

11月の全産業活動指数は前月比▲0.1%と、コンセンサス（同：+0.2%、レンジ：同▲0.9%～+0.9%）を下振れる結果となった。第3次産業活動指数や鉱工業生産指数は改善したものの、建設業活動指数が悪化したことなどから、全産業活動指数は4ヶ月連続のマイナスとなった。これで、10-11月平均の7-9月期比は▲0.9%と、7-9月期の+0.7%から一転してマイナスとなっており、景気の踊り場局面入りが改めて確認された。

内訳別にみると、プラスに寄与した指数は第3次産業活動指数（前月比寄与度：+0.40%ポイント）、鉱工業生産指数（同：+0.17%ポイント）、マイナスに寄与した指数は建設業活動指数（同：▲0.14%ポイント）、公務等活動指数（同：▲0.06%ポイント）であった。

○ 鉱工業生産指数、第3次産業活動指数ともに改善

個別にみると、鉱工業生産指数は、在庫の積み上がりなどから情報通信機械は低下したものの、輸送機械や電子部品・デバイスなどが押し上げに寄与したことで、全体では前月比+1.0%と6ヶ月ぶりにプラスに転じた。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

また、第3次産業活動指数も、エコポイント制度変更前の薄型テレビの駆け込み需要を受け、機械器具小売業が大幅プラスとなったことから、家計部門がプラスに寄与したことに加え、薄型テレビをはじめとした家電販売の増加に伴う生産の増加や設備投資・企業収益の持ち直しなどを背景に企業部門の活動も改善した。その結果、全体では前月比+0.6%と2ヶ月連続のプラスとなった。

一方で、建設業活動指数は、住宅販売の持ち直しなどを受けて民間・建設・土木活動指数はプラスに寄与したが、公共投資の減少などにより公共・建設・土木活動指数がマイナスに寄与したため、全体では前月比▲3.1%(前月同+0.5%)と2ヶ月ぶりにマイナスに転じた。公共事業の発注段階の動向を示す公共工事前払金保証統計の推移をみても、公共工事請負金額は減少基調が継続しており、公共投資は今後も低調に推移していくものと思われる。

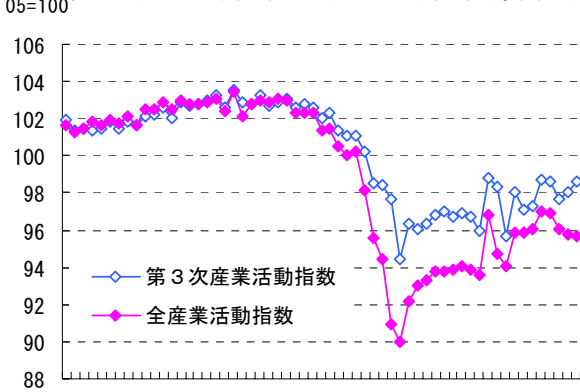
○ 先行きも当面回復力に乏しい動きが続く見通し

全産業活動指数の先行きを展望すると、鉱工業生産指数は、エコカー補助金制度終了に伴う自動車販売の反動減の影響などといった下押し要因はあるものの、生産予測指数を前提におくと、底堅く推移することが見込まれる。

他方、第3次産業活動指数については、①厳しい雇用・所得環境の継続や駆け込み需要の反動による個人消費の落ち込み、②政策効果の剥落などに伴う輸出の減速、などを背景に、家計部門、企業部門ともに弱い動きが続く可能性が高い。

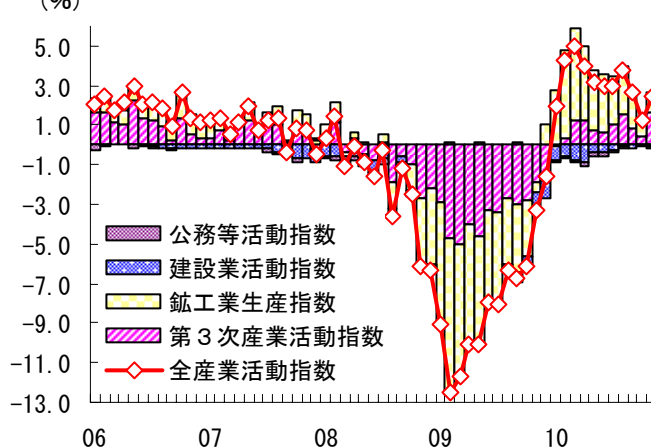
以上を踏まえると、全産業活動指数は、先行きも当面回復力に乏しい動きが続くと予想される。

第3次産業活動指数と全産業活動指数(季調値)



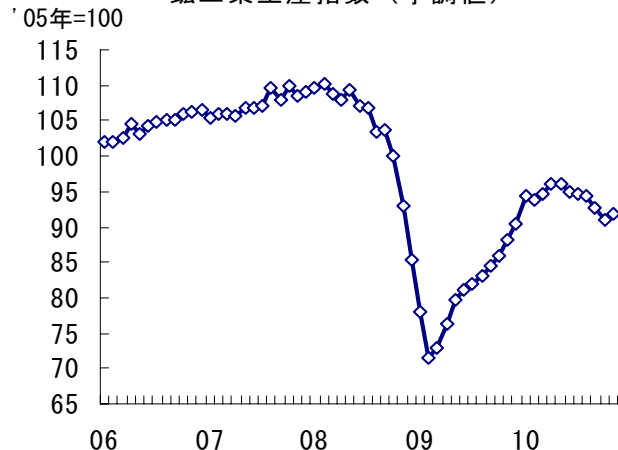
(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」、「全産業活動指数」

全産業活動指数前年比寄与度分解



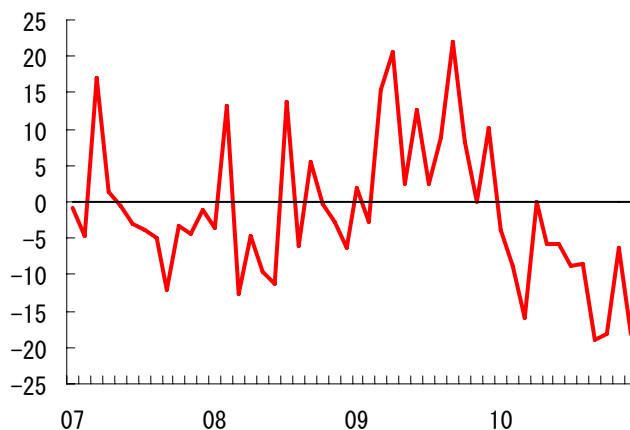
(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

鉱工業生産指数(季調値)



(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

公共工事請負金額(前年比、%)



(出所) 東日本建設業保証株式会社
「公共工事前払金保証統計」